



1 単元名 Daily Scene 3 メール


2 指導観

○ 本学級の生徒は、学習に対して前向きな生徒が多い。また、授業内において全体指導を行う際の発問に対する回答や説明を受けて、発言も出やすく明るい雰囲気の学級である。一方、生徒同士の仲もよく、ペア活動やグループ活動に真剣に取り組むことができる。しかし、自らの意見を全体に発表することに抵抗を感じる生徒が多く、発表することに消極的な生徒も多い。

1学期期末考査の学年全体の結果は、「言語や文化についての知識・理解」の領域では正答率63%、「外国語理解の能力」では正答率73%に対して、「外国語の表現能力」の領域では正答率42%となった。このことから、与えられた文章を理解したり、文法や語句を正しく書く能力に比べて、既習の知識を活用して自己表現する能力が身に付いていないことがわかる。自己表現能力が不十分なため、自信をもって発表できない生徒が多いのではないかと推測する。

以下の表は、一学期に行ったアンケート結果である。興味・関心の観点では、英語で外国人と交流をしたいと思っている生徒が多く、英語に対する興味・関心が高いことがわかる。一方で、知識・理解・表現の観点では、英文の内容理解や聞き取る能力に関しては肯定的な自己評価をしている生徒が多く、英語で自己表現（書く、話す）することに苦手意識をもつ生徒が多い実態が分かる。

本単元では、生徒が意欲的に取り組める題材や導入を工夫すること、また、英語が苦手な生徒でも抵抗なく英作に取り組めるよう、少人数での教え合い活動が効果的であると考え。またICT機器を活用し、自信をもって発表する生徒の態度を育成することが重要である。

(※ 本校2年2組  が回答)

		当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
興味 関心	英語がすきである	15人 (45%)	15人 (45%)	3人 (9.1%)	0人 (0%)
	将来英語で外国の友達と英語で話してみたい	18人 (54.5%)	12人 (36.4%)	1人 (3%)	2人 (6.1%)
	英語で手紙やメールのやり取りがしてみたい	14人 (42.4%)	13人 (39.4%)	3人 (9.1%)	3人 (9.1%)
知識 理解 表現	教科書を読んで理解することができる（読む）	12人 (36.4%)	16人 (48.5%)	5人 (15.2%)	0人 (0%)
	リスニングを聞いて理解できる（聞く）	8人 (24.2%)	21人 (63.6%)	4人 (12.1%)	0人 (0%)
	自分のことを表現できる（話す）	7人 (21.2%)	18人 (54.5%)	8人 (24.2%)	0人 (0%)
	自分のことを表現できる（書く）	8人 (24.2%)	17人 (51.5%)	8人 (24.2%)	0人 (0%)

- 本単元では、不定詞を使って、何かをする目的を述べたり、自分の夢や希望などについて述べるができること、さらに情報を付け足して説明できることが目標である。教科書では、レストランでの職業体験に際しての注意の読み取りから、体験の感想についての対話、新聞社の体験レポートの読み取りなどが扱われる教材である。中学2年のこの時期は、漠然とした夢から自分の将来の職業について具体的に考え始める時期でもある。本単元の登場人物が体験の感想を述べたり、レポートにまとめたものを読んで内容を理解させ、生徒が将来の職業を考える契機としたい。

言語材料の観点から 本単元では to 不定詞の基本的な用法を取り上げる。to 不定詞を含む文は動詞が2つ出て くるため、やや複雑であるともいえるが、その分、豊かな内容を表現できる技能を身に付けることができる。一つの例として、小学校段階で将来の夢を語るという活動が行われる場合があるが、ほとんど I want to be ~. という表現のみで終わっている。そこで、1年生の時に行った、職業新聞作成の調べ学習を振り返り、職業観をはじめとして段階的に様々な情報を、不定詞を活用することで、より豊かな表現力を育てていくことができると考えている。

例 (To be a good doctor I study hard.)

本授業においては、単元目標を達成するために、後述の「ICTの活用について」にまとめている ICTの活用場面・活用方法を取り入れた授業を行う。

- 指導に当たっては、特に、want to …の表現を用いて自分の夢を述べる活動を積極的に行いたい。また、教師や友人の行ってみたい場所、そこで何がしたいかなどを聞いたり読んだりして、不定詞の使い方を理解し、自分自身の将来の夢や希望を表現することができるよう指導する必要がある。その際、5W1Hを意識しながらわかりやすい英文を作成するよう留意しなければならない。また、インタビューではロールプレイングを行うなかで、相手の話の内容に合わせて適切なあいづちを打つ表現を自然に習得できるよう指導することも必要である。さらに本研究主題である ICT機器を効果的に活用することで、英語で自己表現することに対する意欲・関心が高まり、また、話し合う活動が活発に行われることで、作成した文章を修正し合い、よりよい文章表現を身に付けることができると考えている。

3 単元の目標

コミュニケーション能力への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不定詞を使って積極的に自分の将来の夢を表現したり、日頃の出来事を伝えるメールを書こうとしたりしている。 ○ インタビューを行うロールプレイングをペアで協力して行おうとしている。
外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不定詞を用いて情報を加えながら、自分の夢や行ってみたい場所について相手に伝えることができる。 ○ 自分が体験したことを、英語でわかりやすくまとめることができる。
外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の夢や行ってみたい場所を理解したり、レポートの内容を理解したりすることができる。 ○ インタビューを聞いて内容を理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不定詞の形、意味、用法を正しく理解する。 ○ コンピューターを使ったコミュニケーション表現方法を身に付けている。

4 指導計画と評価計画(総時数13時間 本時は10時目)

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価基準及び評価方法
<p>1 Starting Out ①</p> <p>(1) ディーパが職業体験で注意したことについて理解する。</p> <p>(2) 不定詞(副詞的用法)を使って、目的や理由を加えて表現する。</p>	<p>○ 職業体験で訪問する場合、それぞれの場所でどんな注意が必要か、それはなぜかを推測させる。</p> <p>○ 主節と、不定詞で目的や理由を表した後半部分をマッチングさせて正しい文章を作らせ、副詞的用法の使い方について理解させる。</p>	<p>【理】教科書の登場人物の体験場所、そこで注意することについて理解することができる発言分析)</p> <p>【知】不定詞(副詞的用法)の意味、使い方について理解している。 (記述分析、発言分析)</p>
<p>2 Dialog ①</p> <p>(1) 職業体験の感想について理解する。</p> <p>(2) 自分が将来就きたい職業、やりたいことを書いたりペアで対話したりする。</p>	<p>○ 職業体験での感想を読み、どんな職業にどのような苦労があるか等について考えさせる。</p> <p>○ 「もしも～だったら」という条件を与えて、不定詞(名詞的用法)を使ってやってみたいことを考えさせ、英語で表現させる。</p> <p>○ 将来就きたい職業について、小学校の外国語活動で行ったチャンツを思い出させて、リズムよく対話を行わせる。</p>	<p>【理】教科書の登場人物が将来どんな職業に就きたいか理解できる。 (発言分析)</p> <p>【表】不定詞(名詞的用法)を使って、自分や相手の希望を伝えたり尋ねたりできる。 (発言分析、記述分析)</p>
<p>3 Read and Think 1 ③</p> <p>(1) 新聞社での体験について読み取る。</p> <p>(2) 名詞を後ろから不定詞で修飾する形容詞的用法の語法を理解し、指示された英文を書いたり、和訳したりする。</p>	<p>○ 理解に応じて読み取りのポイントを与える。また、教科書37ページのThinkを取り上げ、進路選択に向けて中学生として必要なことを考えさせる。</p> <p>○ 不定詞の用法の中では、理解しにくい表現であるため、例文を多く示して口頭練習した上で英作文を行わせたり、日本語らしく訳させたりする。</p>	<p>【理】新聞社での体験について正しく読み取ることができる。(発表分析)</p> <p>【知】不定詞(形容詞的用法)について、正しく英語や日本語にできる。 (記述分析)</p>

<p>(3) 職場体験など、学校行事について、その内容や学んだことをレポートにして発表する。</p>	<p>○ 教科書やモデル文を参考にして、わかりやすい英文とはどんな特徴があるかを話し合わせる。5W1Hを意識して情報を整理し、まとまりのあるレポートになるよう支援する。</p>	<p>【表】 与えられた条件に従って、体験したことをわかりやすいレポートにまとめることができる。 (記述分析)</p>
<p>4 Read and Think 2 ②</p> <p>(1) コウタが宮間選手へのインタビューから学んだことについて理解する。</p> <p>(2) 自分が会ってみたい人にインタビューする時、適切な質問を考えて、ペアでロールプレイングを行う</p>	<p>○ 宮間選手が活躍する映像を見せて、興味をもたせる。生徒の理解に応じて読み取りのポイントを与える。</p> <p>○ どのような質問をするのか、その質問をどのような順番で尋ねるとその人物像が伝わるかを考えてから、ロールプレイングを行わせる。</p>	<p>【理】 宮間選手からのメッセージを読み取ることができる。(発言分析)</p> <p>【関】 ペアで協力して、積極的にインタビューのロールプレイングを行おうとしている (発言分析、行動観察)</p>
<p>5 Activity 1・2 ②</p> <p>Activity 1</p> <p>(1) 仕事紹介のインタビューを聞き、内容を正しく理解する。</p> <p>Activity 2</p> <p>(1) 行きたい国について自分の希望を書き、それをもとにペアで会話する。</p>	<p>○ 聞き取るポイントを与え、回数を決めてリスニングを始める。聞いた内容を英文にまとめさせる。</p> <p>○ 行きたい国と、そこで何をしたいかだけでなく、その国の特徴なども加えて対話を続けるよう支援する。</p>	<p>【理】 インタビューを聞いて、その内容を正しく理解することができる。 (発言分析、記述分析)</p> <p>【表】 不定詞を使って、自分の希望を書き、その後積極的にペアで会話することができる。 (行動分析・記述分析)</p>
<p>6 Daily Scene 3 メール③</p> <p>(1) モデル文の構成を理解し、メール独特の表現を練習する。</p>	<p>○ メールにも手紙の書き方同様に定型があることを理解させた上で、メールでしか使わない表現や、日本語と英語の略語や絵文字の違いなどについて説明する。メールを使用するときのマナーなどについても考えさせる。</p>	<p>【関】 メールの特徴を知り、日常の出来事についてALT宛のメールを書こうとしている。 (行動観察・記述分析)</p>

<p>(2) モデル文に習って、ALT 宛のメールを書く。(本時2/3)</p> <p>(3) メール文を完成させる。</p> <p>7 まとめと練習をする ①</p> <p>(1) 不定詞の意味と使い方についてまとめと復習を行う。</p>	<p>○ Tool Box やメールで使う表現を提示したり、テーマに使えるような題材をいくつか与えたりする。本文は4文以上書くことを指示しておく。</p> <p>○ 班での意見を基に、正確で条件にあった文が書けているか確認する。</p> <p>○ 同じ動詞を使った不定詞を用いた文を示して3つの用法を確認したり、生徒に3つの用法の文を作らせたりする。</p>	<p>【表】メールの構成や独特の表現を理解して、条件を満たしたメールを書くことができる。 (記述分析)</p> <p>【表】 メール構成や独特の表現を理解して、条件を満たしたメールを書くことが出来る。 【記述分析】</p> <p>【知】 不定詞の3つの意味、用法を理解している。 (記述分析、発言分析)</p>
--	---	---

5 本時前後の指導計画(詳細)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
第1時	○既習の内容(不定詞, 過去形)を使って、自分の近況をメールで3文程度書く。	○班活動にし、教え合いをしながら書かせる。	<p>【関】メール文を完成させるために班員と学び合い活動に積極的に参加している。</p> <p>【表】メールの構成や独特な表現を理解して、条件を満たしたメールを書くことができる。</p>
第2時(本時)	○ペアにメール文を発表したり、相手のメールの内容に質問したりする。 ○発表後、さらに近況が伝わるため1文加え、4文程度のメール文を作成する。	○発表する際、どの生徒も正しい英語らしい発音で発表できるようにタブレットの音読機能で十分練習させる。 ○友達からの質問を思い出しながら文が作成できるようワークシートを活用させる。	<p>【関】英語らしい発音で正しく伝わるよう自分のメール文を紹介できている。</p> <p>【表】不定詞, 過去形を使って4文で近況をマイケル先生に知らせるメール文が書ける。</p>
第3時	○班で修正した内容を基にメール文を完成させる。 ○本文のメール文を理解する。	○チェックリストを基に班で協力してメール文を修正させる。 ○本文を掲示しメール作成のポイントを復習させる。	<p>【表】チェックリストにあったメール文が書ける。</p> <p>【理】モデルのメールを読んで、正確に内容を理解することができる。</p>

6 ICTの活用について

○ 本時においてICTを活用する場面

	活用場面・ICT	活用方法	期待される子どもの姿とICT機器を活用する利点
1	自分のメール内容を友達に発表する場面を設定する	読み上げ機能を利用し、自作英文の読みの練習をさせる。	タブレットPCの読み上げ機能を用いることで、自作した英文の正確な発音を聞くことができる。 それを復唱することで、苦手な生徒の不安感が軽減され、主体的に活動に取り組むことができる。
2	発表の後、友達から受けた質問をもとに、さらに詳しく近況が伝わる英文をタブレットPCに加筆する場面を設定する。	前時の3文で書いたメール文に新たな1文、また追加の情報を入力させる。その際、前の文と比較できるよう青字で入力させる。	発表前の英文と友達の質問をもとに情報を追加した英文が記録に残ることで、自らの英文の作成過程（深化の記録）を比較したり振り返ったりすることができる。また、大型テレビで瞬時に掲示でき、全体にみせることができる。

7 本時の学習 令和元年 9月27日(金) 第5校時 2年2組教室(2時間目/全3時間)

- 1 主眼 既習のメールの構成や独特の表現、文法内容（不定詞，過去形）を使って4文程度の近況を知らせるメール文を作成することができる。
- 2 準備 教科用図書『New Horizon course 2』
I C T機器・教師用タブレットP C 1台、生徒用タブレットP C（一人1台）・
大型テレビ、ワークシート、マイケルビデオレター、辞書
- 3 展開

主な学習活動・内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法） ◎ 本時における ICT の活用のポイント
<p>1 「一分間チャット」をする。</p> <p>2 前時の復習をする。 マイケル先生から届いたメール、また前時に書いた自分のメール文を確認する。</p> <p>3 メール返信を4文以上書く。 (1) マイケル先生からのビデオレターをみて、めあての確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のタブレットP Cは電源を入れ、ログインを済ませた状態にしておき、すぐに授業に参加できるよう指導する。 ○ワークシート裏面にお助けプリントを準備し、どの生徒も会話が続けられるよう支援する。 ○アイコンタクト、自然なあいづち、声が大きく出ているか机間指導しながら声掛けを行う。 ○マイケル先生からのメール内容を思い出せるよう、テレビ画面に表示させる。 ○メールの構成や書き方が常に目に入るよう、返信のモデル文を掲示しておく。（前時使用分） <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Hello, Teacher Mike. Thank you for your mail. I went to Tokyo to go to Disney land. I saw Cinderella castle. It was beautiful. Bye now. Satoko</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○マイケル先生のビデオレターを大型テレビで見せる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>Today' s Goal マイケル先生に、不定詞，過去形を使って4文以上の近況を知らせるメール文を書こう。</p> </div>	
<p>(2) 発表のための練習をする。 (前時で3文程度の近況を知らせるメール文作成済み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ I C T機能の良さである読み上げ機能を利用して、英語の苦手な生徒でも、自分の作成した英文が正しく英語らしい発音で読めるよう練習させる。 <活用1 >

(3) ペアで自分のメール文を紹介する。(2人)

(4) メール返信を4文以上書く。
ペアから来た質問の内容を基にメール文に文
加筆し、青い線をひく。

Hello, Teacher Mike.
Thank you for your mail. I went to Tokyo
to go to Disney land I saw Cinderella
castle. It was beautiful.
I ate Monjayaki in Tokyo.
Bye now.
Satoko

4 本時の授業を振り返る。
青字で加筆した内容を参考に振り返りをす
る。

- 生徒が打ち込んだ文章をタブレットに音読させる。
- 聞いただけではわからない生徒のために、書いた文章を相手にも見えるように掲示しているか確認する。
- 聞く側は、より聞きたい内容を質問する。その際、英語が苦手な生徒でも質問が出やすいよう質問例をワークシートに記入しておく。
- アイコンタクトと声の大きさに気を付け、英語らしい発音で正しく伝わるよう自分のメール文を紹介できている。【意欲・関心】
- 友達からの質問を参考に作文しやすいようワークシートを活用させる。
- わかりやすいよう、例文を掲示する。
- 班にし、英文が分からない生徒は友達と協力して作文するよう助言する。
- 不定詞、過去形を使って4文以上で近況をマイケル先生に知らせるメール文が書けている。【表現】
＜活用2＞
- 良い例を共有できるよう、大型テレビに掲示し、全体に見せる。
- 友達のどんな質問が修正や加筆の参考になったかを聞き、今後のコミュニケーション活動の質問に役立てさせる。